ダスキン愛の輪基金

公益財団法人　ダスキン愛の輪基金

2015年度（第35期）事業報告書

愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

感謝を込めて・・・

合掌
1981年、「めい　あい　へるぷ　ゆう」（なにかお手伝いできることはありませんか）の精神で、
「障がいのある方の自立と社会参加」を支援しよう、との願いで
「財団法人　広げよう愛の輪運動基金」を設立しました。

ミスタードーナツ創業10年の年、国際連合の「国際障害者年」に因んで、
“ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣事業”として開始以来、35周年を迎えることができました。
今日まで多くの皆さまのご支援ご賛同をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

現在、「ダスキン愛の輪基金」は、大きく2つの事業を実施しています。
1つ目は、財団設立当初から実施しております地域社会のリーダーとして貢献したい、
と願う障がいのある若者を海外に研修派遣する事業。35年間で489名が研修を修了し、
帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、
パラリンピック選手などさまざまな分野で活躍されています。
2つ目は、1999年より実施しているアジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、
障がい者福祉を学んでいただく事業です。
17年間で121名の研修生が学び、母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの活動は、会員さまからの会費、ミスタードーナツ店舗などでの募金、多くの方々からの献金と、
研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの研修生への温かい励ましなど、
物心両面での支えがあってのことと感謝申し上げます。

近年では、“愛の輪運動のファンづくり”として、研修生とふれあう機会を積極的につくり、
Facebookなどを通じて愛の輪の活動をお知らせしております。
また、ホームページをご覧いただいて献金いただくこともあります。
35年前の私たちの小さな願いが広がり、大きな“輪”になってきていることを実感しております。

これからも、“愛の輪の活動”をより多くの方々にお知らせすることに取り組むとともに、
すべての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてまいります。

今後とも、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。　合掌

公益財団法人　ダスキン愛の輪基金
理事長　山村輝治

第35期も愛の輪会員の皆さまの温かいご支援を賜り、さまざまな活動を行うことができました。

公益財団法人ダスキン愛の輪基金　2015年度（第35期）事業報告書　目次

1　理事長あいさつ

3　ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
- ●個人研修
- ●スタディ・イン・アメリカ研修
- ●研修生募集から成果発表まで

7　ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業

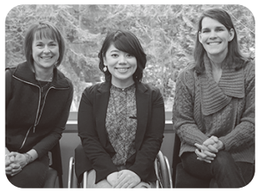
9　愛の輪地域活動
- ●愛の輪タイム
- ●新春のつどい
- ●研修生と地域のふれあい活動
- ●財団設立35周年記念式典

11　正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録
収入・支出・会員数の推移

13　財団35年の歩み

14　役員・委員一覧

15　めい あい へるぷ ゆう ― ダスキン愛の輪基金
あいのわ宣言
「広げよう愛の輪運動」会員憲章



障害の「がい」の文字表記について

この事業報告書では、事業名称等定款に記載されている文言、ならびに法律用語については漢字表記とし、それ以外については「害」を「がい」とひらがな表記とさせていただいております。ただし、研修生の報告は本人の意思（表記）を尊重しております。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業

事業発足後、35年間で489名の研修生を海外15ヵ国に派遣。第35期は個人研修生5名を研修派遣しました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の構成〈489名〉

地域別（応募時）

北海道	9名	北陸	13名
東北	27名	近畿	97名
北関東	53名	中国	20名
南関東	54名	四国	15名
東京	113名	九州	40名
東海	48名		

性別

男性	221名
女性	268名

障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	101名
聴覚障がい	97名
盲ろう	2名
肢体不自由	190名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	3名
発達障がい	1名

海外派遣先別

アメリカ	386名
イギリス	20名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	11名
ドイツ	11名
カナダ	9名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	4名
ノルウェー	3名
デンマーク	2名
フランス	1名
フィリピン	1名
ロシア	1名

ヨーロッパ各国の「音楽療法」の現状を知ることで、視覚障害者の就労の可能性を学びました。

研修先であるオーストリアでは、音楽療法が国家資格として認められており、音楽療法士は理学療法士と同じくらいの信頼があって、多くの音楽療法士が病院や介護施設などの現場で活躍しています。日本では、理学療法士や鍼灸師といった職業が視覚障害者の主な就労先となっており、就労の選択肢は限られているのが現状です。この音楽療法士という職業が、視覚障害者をはじめ障害のある方々の就労のひとつになるのではないかと思い、ウィーン音楽療法士会のメンバーの方からオーストリアの音楽療法の現状や、日本とオーストリアの捉え方の違いについて伺ったり、ウィーン国立音楽大学音楽療法学科の授業を聴講し、ヨーロッパ各国の音楽療法について学びました。また、研修ではドイツ、チェコ、イタリアにある視覚障害者のための職業訓練センターや盲学校を訪問し、就労の現状や教育環境、指導方法などについても研修しました。
その他にも視覚障害者のための設備や取り組みには興味深いものが多く、そういった取り組みは日本にも取り入れたいアイデアであり、今回の研修の成果を活かして、プロジェクトを行っていけたらと考えています。

個人研修生
北原 新之助さん
（視覚障がい）

【研　修　先】ドイツ：ニュルンベルク盲学校
オーストリア：オーストリア盲人会連合
【研 修 期 間】2015年11月20日～2016年10月1日（予定）
【研修テーマ】ドイツ・オーストリアにおける音楽療法、福祉支援や教育環境について学ぶ

ロシアのデフスポーツ支援システムを学ぶことで、日本を取り巻く厳しい環境を再確認しました。

ロシア第二の都市・サンクトペテルブルクにある全ロシア聴覚障害者協会を拠点に、ロシアのデフスポーツ支援システムを学びました。ロシアはデフリンピックなどでメダルを量産していて、メダルを獲ると生活が変わるほどの報酬を国から与えられるといわれています。それに比べて、日本ではそのような環境が整えられていません。日本におけるデフリンピックの認知度はわずか2%。日本のデフスポーツを取り巻く厳しい環境を改善していくには、ロシアから学ぶことが数多くあります。
ロシアは情報が少なく、閉ざされた未知の世界というイメージがあると思いますが、今回の研修でそのイメージはすっかり覆りました。ソ連時代の古い建物が多く残るものの、高層マンションや大型ショッピングモールなどがどんどん建てられています。とはいえバリアフリーに関してはかなり遅れていて、例えば地下鉄の駅にはエレベーターがありません。そのせいか高齢者や子連れに親切にする習慣があり、地下鉄やバスなどで若い人が席を積極的に譲る場面をよく目にしました。不便に感じる反面、日本が見習うべきところが多く、驚きと発見の日々を過ごしました。

個人研修生
平井 望さん
（聴覚障がい）

【研　修　先】ロシア：全ロシア聴覚障害者協会サンクトペテルブルグ地方局
【研 修 期 間】2015年9月12日～2016年9月10日（予定）
【研修テーマ】欧州のデフスポーツを背景にスポーツマネジメントを学ぶ

40を超える企業・障害者団体の取材を通して、日本の障害者雇用を変えるためのヒントを獲得。

自分自身の就職活動をきっかけに日本の障害者雇用を変えたいと思い、障害学が始まった場所であるニューヨーク州シラキュースを研修先に選びました。訪問したのはシアトル、サンフランシスコ、ボストンなど全7州12都市。取材したのは40を超える企業や障害者団体です。
雇用に関して驚いたのは、障害の公開が任意であること、雇用主側から障害について質問するのは違法であることなど。また、すべての会社が採用で最も重視するのは、その人が持っている「能力」だと話されていました。
企業訪問では障害のある従業員の方にも取材をしました。例えば、Facebook本社では全盲のエンジニアにお会いしました。彼は視覚障害のFacebookユーザーに写真情報を音声で知らせるシステムを開発しています。Starbucks本社では、ろう者のビジネスアナリストと一緒に社内会議に参加。当事者ならではの視点でアイデアを出し、他のメンバーに新しい気づきを与えていました。また、大企業の多くで、従業員たちが本業とは別にダイバーシティ理解向上のグループに所属し、積極的に活動を行っているというのも企業文化に大きく影響を与えていると実感しました。

個人研修生
徐 みづきさん
（肢体不自由）

【研　修　先】アメリカ：シラキュース大学Burton Blatt Institute
【研 修 期 間】2015年10月3日～2016年9月16日（予定）
【研修テーマ】障がい者の能力を職場で最大限に発揮させるには

スタディ・イン・アメリカ研修

昨年度より実施されているプログラムで、
今回は2名の研修生をアメリカに派遣。
約5ヵ月間にわたって語学研修とともに、
個人の希望するテーマに沿った研修を行いました。

【研修先】アメリカ：マサチューセッツ州立大学ボストン校（UMB）
グローバルインクルージョン・社会開発学部
地域インクルージョン研究所（ICI）
【研修期間】2015年7月30日～12月21日
【研修内容】①英語集中研修　②障がいに関する学習
③障がい者リーダーシップ個人研修
④定期的なグループ指導セミナー

吉田 祐太さん（聴覚障がい）　【研修テーマ】ろう者のアイデンティティーやろう文化、教育方法について

ボストンでの経験は自分探しの旅となりました。ろう者や難聴者のために設立されたDEAF,Inc.という非利益組織で働くことで、アイデンティティーやろう文化などを学ぶことができました。聴覚障がい者のアイデンティティーは3つのグループに分けられます。医学的に聞こえない意味を含む“deaf（小文字のd）”。文化、言語、可能性に焦点を当てている“Deaf（大文字のD）”。そして残存聴力を持つ“Hard of Hearing”です。以前は自分のことをdeaf（小文字のd）として見ていましたが、ボストンでの経験を通じてDeafであることを強く主張するようになりました。アイデンティティーを見つけることはとても難しいことだと思います。日本のほとんどのdeafの学校では、Deaf文化や歴史を学ぶ機会がとても少ないです。結果としてアイデンティティーや文化を学ぶことができなかった学生が、健聴者の世界で自身のことを主張できなくなります。日本ではDeaf文化の認識を高める必要があると考えられます。これからはDeaf文化の認識を高めるためにコミュニティサポートグループに参加して、ボストンでの経験をさまざまな人々とシェアしていきたいです。

東川 結さん（肢体不自由）　【研修テーマ】アートとその色彩がどのように障害者の心と体、脳に影響を与えるか

研修では「アートの重要性」と「さまざまな能力の人に対してどんなアート活動の提案ができるか」を学びました。インターンシップ先として通ったHenderson Inclusion Schoolでは、美術の先生の補佐役としてアートの授業に関わりました。障害のある生徒が健常の生徒と一緒に授業を受けると、「できないこと」に注目しがちですが、「できること」に目を向けて、インクルーシブ教育の実現を図っていることを実感。工作には薄い色紙を使いますが、目が見えない生徒には厚紙を使ってもらいます。視覚的に色や形を認知できなくても、感覚で周りの生徒と同じように経験させるということです。教師はひとつの方法ではなく、能力や状態に合わせた選択肢を用意し、生徒が「できない」という結果にならないように心がけることは一番勉強になりました。この経験を通して、アートとその色彩の与える影響を理解するだけでなく、それを披露する機会や場所、アートの効果を最大限に引き出すためのアクティビティや空間づくりなども学ぶ必要があると考えるようになり、多様なアートを用いた生徒へのアプローチの仕方を学ぶことができました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
研修生募集から成果発表まで（第35期研修派遣生）

①海外研修説明会を開催

2014年10月4日にダスキン東京オフィス、10月11日にダスキン本社で海外研修説明会を開催。両会場で40名を超える応募者が参加されました。研修派遣修了生による海外研修体験報告も行われました。

②事前研修会を実施

第35期海外研修派遣生に選ばれた、個人研修生3名とスタディ・イン・アメリカ研修生2名の事前研修会が3月27・28日の2日間、ダスキン本社で行われました。障がい者福祉の歴史と現状、障がいのある人たちの自立生活とエンパワメントについてなどの講義を実施。また、第33期研修派遣生の成果発表を聞き、海外研修に向けて胸をふくらませました。

③壮行会で研修派遣生を激励

第35期研修派遣生の壮行会が、ダスキン本社にて5月19日に開催され、研修派遣生を含む約70人が参加。ダスキン愛の輪基金の山村理事長や、副理事長の宮城まり子さんら多くの方から激励の言葉が贈られました。

④研修国へ出発

- 7月30日：スタディ・イン・アメリカ研修生／吉田祐太さん、東川結さん
- 9月12日：個人研修生／平井望さん
- 10月3日：個人研修生／徐みづきさん
- 11月20日：個人研修生／北原新之助さん

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業の流れ

2014年	9月 1日	募集開始
	10月 4日・11日	①海外研修説明会
	11月15日	募集締切
2015年	1月	書類選考
	2月21日	面接審査
	3月	研修派遣生決定
	3月27日～28日	②事前研修会
	5月19日	③壮行会
	7月～11月	④出発
	12月21日	スタディ・イン・アメリカ研修帰国
2017年		成果発表会

ダスキン・アジア太平洋
障害者リーダー育成事業

1999年の発足より17年目を迎えた、アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。応募者280名の中から選出された第17期の6名は、2015年9月7日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが約10ヵ月の研修に臨みました。

ギャン・バハドゥル・ビタコチさん
年齢：24歳
出身地：ネパール
聴覚障がい

ろう者と難聴者に教育と職業訓練を提供し、自立を可能とすることを目指すガンダキ聴覚障害者協会で、かつてネパール手話の講師を務めたこともあるギャンさん。日本ではろう者に対する社会教育、高齢ろう者に対する居場所づくり、手話通訳者の派遣方法やそのルールなどを研修。帰国後の目標としては、ろう協会の組織強化を図ることで問題を抱えている人のサポートを実施。さらに組織の持続性を高めるためにも、若い人たちに経験を積んでもらい、活動を任せるようにしたいとしています。

ハニタ・マイポンさん
年齢：23歳
出身地：ラオス
聴覚障がい

母国では聴覚障害者協会にて副会長を務めながら、財務オフィサーおよび訓練担当として働くハニタさん。日本での研修では、日本のろう当事者団体の組織づくりや活動内容、日本におけるろう文化、ろう者に対する差別をなくす活動、手話通訳者の養成と手話教授法を学びました。帰国後はろう協会の組織を抜本から見直し、組織の強化に努めること。ろう者にともに活動することの意味を伝え、組織化を図ること。ろう青年のグループを統合し、ひとつの組織にまとめることなどを目指します。

ジェイビス・ニュブタイ・マナイカさん
年齢：24歳
出身地：ソロモン諸島
視覚障がい

ジェイビスさんは、母国の南太平洋地域事務局で受付業務に従事するかたわら、週末はキングソロモンホテルで予約係として勤務。今回の研修目標は、言語・文化・社会・ライフスタイル・福祉政策・障がい者へのサービスを学ぶことと、コンピュータースキルを高めること。帰国後は障がい者のワークショップの開催や、ラジオ局の受付兼MCに復職し障がいに関連する番組を作るよう働きかけを行う。また、点字やPCスキル、支援機器の使い方などのインストラクターとして活動したいそうです。

アリユナ・バッサンダッグさん
年齢：29歳
出身地：モンゴル
視覚障がい

モンゴル人文大学卒業後から現在まで、フリーまたはボランティアで英語翻訳をするとともに、モンゴル視覚障害者連盟で英語を教えているアリユナさん。母国で自立生活センターの活動に関わり、介助サービスの実現や、視覚障がい者のための生活訓練プログラムを開発するために、日本では視覚障がい者の生活訓練、インクルーシブ教育、視覚に障がいのある学生に対する効果的な指導法、雇用機会の創出および可能性、作業所および収入創出などをテーマに積極的に研修を実施しました。

第17期生　日本での主なスケジュール

2015年9月……開講式
　　日本語（日本手話）研修
2015年12月……日本語・日本手話成果発表
　　グループ研修
2016年1月……ホームステイ
　　グループ研修
2016年2月……個別研修（～5月）
　　グループ研修（5月～6月）
2016年6月……成果発表会・修了式

現在までに27の国と地域から121名が参加

中央・西アジア　7名
- ●カザフスタン　2名
- ●タジキスタン　2名
- ●キルギス　1名
- ●アフガニスタン　1名
- ●ウズベキスタン　1名

南アジア　32名
- ●ネパール　9名
- ●パキスタン　8名
- ●バングラデシュ　5名
- ●スリランカ　4名
- ●インド　4名
- ●モルディブ　2名

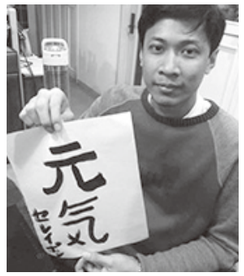
東アジア　22名
- ●韓国　6名
- ●台湾　7名
- ●モンゴル　5名
- ●中国　4名

東南アジア　54名
- ●ベトナム　8名
- ●フィリピン　9名
- ●インドネシア　7名
- ●カンボジア　7名
- ●マレーシア　6名
- ●ミャンマー　5名
- ●タイ　5名
- ●ラオス　5名
- ●シンガポール　2名

オセアニア　6名
- ●パプアニューギニア　1名
- ●フィジー　4名
- ●ソロモン　1名

セレイポン・チムさん
年齢：30歳
出身地：カンボジア
肢体不自由

帰国後は公務員として働くことになっているセレイポンさん。プノンペン国立大学の在学時にカンボジア日本協力センターで日本語を学び、3級を取得。卒業後はワールドビジョンカンボジア、フランス赤十字、カンボジア子供基金などで勤務。日本では、障がい者の福祉政策およびサービス、日本のインクルーシブ教育、権利擁護活動など多岐にわたるテーマで研修。母国に戻った後は、カンボジアでインクルーシブ教育を広め、障がいのある子どもの学びをサポートすることを目標としています。



アディール・アハマッドさん
年齢：28歳
出身地：パキスタン
肢体不自由

2011年に韓国で行われたアビリンピック※のデザイン部門で銅メダルを獲得し、現在はウェブ開発やグラフィックデザインで生計を立てているアディールさん。日本では、重度障がい者の自立を支える理念や法的な制度、サービスなどをテーマに研修。帰国後は障がいのある人に人権や権利について伝え、彼らのサポートセンターを設立し、コンピュータスキルなどを教えることで、障がいのある人に収入を得る方法を身につけさせたり、重度障がい者のために介助サービスを始める予定だそうです。

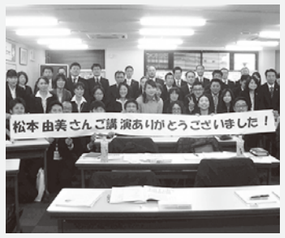
※全国障害者技能競技大会

全国各地で、愛の輪運動地域実行委員会による活動が行われ、愛の輪運動への理解とご支援の輪がさらに広がりました。

愛の輪タイム

関係会社における政策勉強会などの愛の輪タイムで研修派遣生が講演

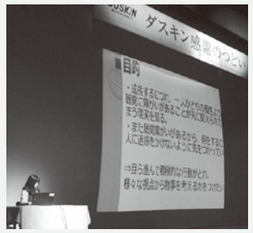
全国の関係会社の表彰式や政策勉強会などで、今年度初めて愛の輪タイムを設けていただき、研修派遣生が講演を行いました。参加された研修生は別表のとおりです。



サーヴ北海道	第25期研修派遣生　福地 健太郎さん
サーヴ東北	第28期研修派遣生　松本 由美さん(旧姓 森山)
サーヴ北関東	第34期研修派遣生　蔵本 紗希さん
	第30期研修派遣生　織田 友理子さん
	第19期研修派遣生　林 早苗さん
シャトル東京	第10期アジア研修生　エイジョ・チンさん
サーヴ東海北陸	第33期研修派遣生　小林 功治さん
サーヴ近畿	第33期研修派遣生　山本 真記子さん
	第15期研修派遣生　廣瀬 浩二郎さん
サーヴ中国四国	第28期研修派遣生　畑 俊彦さん
サーヴ九州	第35期研修派遣生　東川 結さん

ダスキン感謝のつどい 愛の輪タイムで研修派遣生が講演

全国各地で開催された「ダスキン感謝のつどい」第1部ダスキンの社会貢献活動報告で、研修派遣生が講演を行いました。参加された研修生と会場は別表のとおりです。



神戸会場	第26期研修派遣生　常 瑠里子さん
札幌会場	第21期研修派遣生　永瀬 充さん
西条会場	第30期研修派遣生　大和 なゆたさん
宮城会場	第28期研修派遣生　松本 由美さん(旧姓 森山)
東京会場	第32期研修派遣生　谷澤 舞香さん
高岡会場	第30期研修派遣生　木村 敬一さん
福岡会場	第30期研修派遣生　織田 友理子さん
沼津会場	第30期研修派遣生　織田 友理子さん
松山会場	第33期研修派遣生　藤原 なるみさん
広島会場	第28期研修派遣生　畑 俊彦さん

新春のつどい

研修派遣生の講演などによって交流を図りました。

【北海道地域】1月16日、札幌グランドホテルにて展示ブースの出展および募金活動を実施。

【東北地域】1月12日、江陽グランドホテルにて第13期研修派遣生・佐藤聡さんによる講演。

【北関東地域 南関東地域】1月13日、TKPガーデンパレス品川にて愛の輪映像放映による会員促進および募金活動。

【東京地域】1月8日、コンラッド東京にて第13期研修派遣生・佐藤聡さんによる講演。

【東海地域】1月8日、ヒルトン名古屋にて第2期研修派遣生・谷口明広さんによる講演。

【近畿地域】1月12日、ホテルニューオータニ大阪にて第30期研修派遣生・織田友理子さんによる講演

【四国地域】1月16日、ホテルクレメント徳島にて第25期研修派遣生・脇水哲郎さんによる講演とチャリティ募金。

【九州地域】1月15日、沖縄かりゆしアーバンリゾートナハにてパネル展示およびパンフレット配布。

研修生と地域のふれあい活動

東北地域

RA・HR
マスターズ大会

近畿地域

愛の輪
ボウリング交流会

南関東地域

愛の輪チャリティ
ボウリング大会
神奈川大会

中国地域

RA・HR
マスターズ大会

東京地域

第17期
アジア研修生との
スキーふれあい活動

九州地域

フィールドトリップ

ダスキン愛の輪基金 財団設立35周年 秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催!

ダスキン愛の輪基金が2016年に財団設立35周年を迎え、記念式典として海外研修派遣生の成果発表会を7月2日、丸ビルホール&コンファレンススクエア(東京都千代田区)で開催。愛の輪法人会員の加盟店など211人が参加しました。
成果発表会では、第33期研修生1名と第34期研修生13名(個人研修生4名、グループ研修生2組9名)が、研修先で学んだことを発表しました。なお、今回の成果発表会には秋篠宮妃殿下と眞子内親王殿下にご臨席いただき、発表後には研修生への手話をまじえたお声掛けもいただきました。

正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録

2015年度（第35期）の会費・寄付金等の合計収入は、約1億7千5百万円です。

正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日
単位:円

科　目	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
基本財産運用益	
基本財産受取利息	7,380,238
受取会費計	149,690,947
受取寄付金計	18,568,665
雑収益計	119,244
経常収益計	175,759,094
経常費用計	183,895,063
当期経常増減額	-8,135,969
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	-8,135,969
一般正味財産期首残高	60,093,168
一般正味財産期末残高	51,957,199
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	1,855,000,000
指定正味財産期末残高	1,855,000,000
Ⅲ　正味財産期末残高	1,906,957,199

貸借対照表

平成28年3月31日現在
単位:千円

	第33期 2014.3.31	第34期 2015.3.31	第35期 2016.3.31
資産の部			
流動資産	71,378	57,530	52,284
固定資産	1,874,617	1,872,392	1,870,252
資産合計	**1,945,996**	1,929,923	1,922,537
負債の部			
流動負債	3,622	2,268	1,987
固定負債	11,615	12,562	13,592
負債合計	**15,238**	14,830	15,579
正味財産の部			
指定正味財産	1,855,000	1,855,000	1,855,000
一般正味財産	75,758	60,093	51,957
正味財産合計	1,930,758	1,915,093	1,906,957
負債及び正味財産合計	**1,945,996**	1,929,923	1,922,537

＊記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

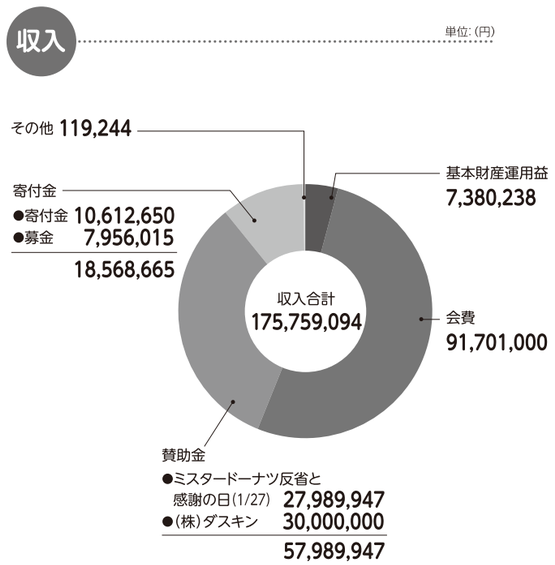
財産目録

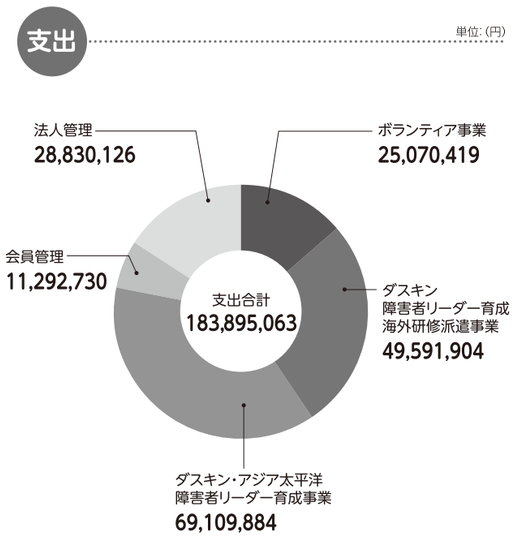
平成28年3月31日現在
単位:円

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	49,548,528
貯蔵品	1,641,698
立替金	0
前払金	1,094,400
未収金	0
流動資産合計	52,284,626
【固定資産】	
基本財産	1,855,000,000
その他の固定資産	15,252,443
固定資産合計	1,870,252,443
資産合計	**1,922,537,069**
負債の部	
【流動負債】	
未払金	1,367,406
前受会費	209,500
預り金	410,576
流動負債合計	1,987,482
【固定負債】	
退職金給与引当金	13,592,388
固定負債合計	13,592,388
負債合計	**15,579,870**
正味財産	**1,922,537,069**

収入・支出 会員数の推移

収入・支出





会員数の推移

単位:人（件）

	法人会員	特定法人会員	エルダー会員	働きさん会員	個人会員A	個人会員B	個人会員C	小　計	メイト会員	（累計）	合計会員数	（累計）
第33期 2014 3.31	229	448	535	1,774	1,409	2,854	6,440	13,689	168	173,675	13,857	187,364
第34期 2015 3.31	221	455	535	1,755	1,420	2,924	6,233	13,543	157	173,832	13,700	187,375
第35期 2016 3.31	223	456	535	1,739	1,382	2,964	6,829	14,128	92	173,924	14,220	188,052

財団35年の歩み

第35期（2015年）は、研修派遣生5名を世界各国へ派遣しました。

■ **第1期 1981年**

●3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。

●11月26日:厚生省より「財団法人　広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

■ **第2期 1982年**

●1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。

●1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。

●研究開発助成事業として4機関が決定。

●第2期留学生10名を派遣。

■ **第3期 1983年**　●留学生9名を派遣。

■ **第4期 1984年**　●留学生9名を派遣。

●「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。

■ **第5期 1985年**　●留学生9名を派遣。

■ **第6期 1986年**　●留学生8名を派遣。

●研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。

■ **第7期 1987年**　●留学生8名を派遣。

■ **第8期 1988年**　●留学生7名を派遣。

■ **第9期 1989年**　●留学生7名を派遣。

■ **第10期 1990年**　●留学生10名を派遣。

■ **第11期 1991年**

●障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名（介助者を含む）を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。

●全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

●第1回「愛の輪のつどい」が開催される。

■ **第12期 1992年**

●ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に4チーム98名（介助者を含む）を派遣。知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。

■ **第13期 1993年**

●ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に6チーム97名（介助者含）を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

■ **第14期 1994年**

●全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。

●ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、個人長期研修派遣生8名を派遣。また知的障害者グループ短期研修生5名をアメリカに派遣。

■ **第15期 1995年**

●愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。

●研修派遣生10名を派遣。

■ **第16期 1996年**　●研修派遣生10名を派遣。

■ **第17期 1997年**　●研修派遣生9名を派遣。

■ **第18期 1998年**　●研修派遣生7名を派遣。

●第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

■ **第19期 1999年**　●研修派遣生9名を派遣。

●ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。

■ **第20期 2000年**　●研修派遣生8名を派遣。

■ **第21期 2001年**　●研修派遣生9名を派遣。

■ **第22期 2002年**　●研修派遣生9名を派遣。

■ **第23期 2003年**

●財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。

●研修派遣生11名（2グループ7名、個人研修生4名）を派遣。

■ **第24期 2004年**

●研修派遣生12名（2グループ8名、個人研修生4名）を派遣。

■ **第25期 2005年**

●11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。

●研修派遣生11名（1グループ6名、個人研修生5名）を派遣。

■ **第26期 2006年**

●研修派遣生12名（3グループ9名、個人研修生3名）を派遣。

■ **第27期 2007年**

●研修派遣生12名（2グループ8名、個人研修生4名）を派遣。

■ **第28期 2008年**

●研修派遣生30名（4グループ17名、個人研修生5名、新設したジュニアリーダー育成グループ8名）を派遣。

●愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

■ **第29期 2009年**

●研修派遣生16名（2グループ8名、個人研修生8名）を派遣。

■ **第30期 2010年**

●研修派遣生27名（4グループ21名、個人研修生6名）を派遣。

●バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。

●12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。

■ **第31期 2011年**

●研修派遣生19名（2グループ13名、個人研修生6名）を派遣。

●2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

■ **第32期 2012年**

●研修派遣生13名（2グループ10名、個人研修生3名）を派遣。

■ **第33期 2013年**

●研修派遣生9名（1グループ5名、個人研修生4名）を派遣。

●ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生　木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

■ **第34期 2014年**

●マサチューセッツ州立大学ボストン校の協力で「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

●研修派遣生14名（2グループ10名、個人研修1名、スタディ・イン・アメリカ研修生3名）を派遣。

■ **第35期 2015年**

●研修派遣生5名（スタディ・イン・アメリカ研修2名、個人研修生3名）を派遣。アジア第17期生6名（ネパール、ラオス、ソロモン、モンゴル、カンボジア、パキスタン）を招へい。

役員・委員一覧

■役員

（任期:平成27年6月17日～平成29年6月開催予定評議員会）

理　事	理　事　長	山村　輝治	（株）ダスキン　代表取締役社長
	専務理事	里岡　和也	（株）ダスキン　ミスタードーナツカレッジ学長
	常務理事	山本　典芳	（公財）ダスキン愛の輪基金　事務局長
	理　事	宮城　まり子	（学）ねむの木学園　理事長
	理　事	小野　正師	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会　理事長
	理　事	松友　了	社会福祉士事務所・早稲田すぱいく　社会福祉士
	理　事	五十嵐　紀子	（社福）光友会　理事長・総合施設長
	理　事	松井　亮輔	（公財）日本障害者リハビリテーション協会　副会長
	理　事	關　宏之	（社福）日本ライトハウス 常務理事
	理　事	宮原　英基	ミスタードーナツフランチャイズ共同体　理事長
	理　事	佐藤　善則	ダスキン生産協栄会　相談役
	理　事	大熊　由紀子	国際医療福祉大学大学院　教授
	理　事	田門　浩	都民総合法律事務所　弁護士

（任期:平成27年6月17日～平成31年6月開催予定評議員会）

評議員	評議員	青柳　紀	（株）ヨコハマフーズ　代表取締役社長
	評議員	東　正樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会　理事長
	評議員	君塚　葵	全国肢体不自由児施設運営協議会　前会長
	評議員	下　二朗	ダスキン労働組合　委員長
	評議員	須田　隆	興隆産業（株）　代表取締役
	評議員	田中　義隆	ダスキン全国ケアサービス加盟店会　理事長
	評議員	中尾　知也	ダスキンレントオールコミュニティ会　理事長
	評議員	花島　弘	（社福）日本点字図書館　理事
	評議員	福母　淳治	（公財）日本障害者リハビリテーション協会　常務理事

（任期:平成27年6月17日～平成31年6月開催予定評議員会）

監　事	監　事	鶴見　明久	（株）ダスキン　専務取締役

（任期:平成27年6月17日～平成29年6月開催予定評議員会）

顧　問	顧　問	伊東　英幸	（株）ダスキン　元代表取締役会長

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会　委員

（任期:平成27年4月1日～平成29年3月31日）

八木　三郎	天理大学　准教授	石川　准	静岡県立大学 国際関係学部　教授
青松　利明	筑波大学付属視覚特別支援学校　教諭	尾上　浩二	認定NPO法人DPI日本会議　副議長
青柳　まゆみ	愛知教育大学　障害児教育講座　准教授	小林　洋子	筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター　助教
金塚　たかし	特定非営利活動法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク　統括所長	山下　幸子	淑徳大学　総合福祉学部　教授

■ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会　委員

（任期:平成27年4月1日～平成29年3月31日）

寺島　彰	浦和大学　総合福祉学部 教授	嶋本　恭規	（一財）全日本ろうあ連盟　WFDアジア地域事務局長
山口　和彦	特定非営利活動法人　居宅移動支援事業所 TOMO　事務局長	稲　淳子	精神保健福祉士
河村　宏	特定非営利活動法人　支援技術開発機構　副理事長	野村　美佐子	（公財）日本障害者リハビリテーション協会　参与
高嶺　豊	特定非営利活動法人　エンパワーメント沖縄　理事長	村瀬　道雄	横浜訓盲学院　教頭
小倉　國夫	アジア障害者支援プロジェクト　事務局長		

■愛の輪運動地域実行委員会　委員長

（任期:平成28年4月1日～平成30年3月31日）

北海道地域	吉川　哲也	（株）ダスキンフロンティア　代表取締役
東北地域	稲葉　廣直	（株）アイウェイ　イナバ　代表取締役
東京地域	鯨井　敦	（株）ダスキン城北　代表取締役
北関東地域	寺澤　義孝	（株）ダスキン西蒲原　代表取締役社長
南関東地域	牧野　保	（有）ダスキン茂原　代表取締役社長
北陸地域	和泉　晋吾	（株）ダスキン高岡　代表取締役社長
東海地域	小野　英昭	タイホウフーズ（株）　代表取締役社長
近畿地域	守屋　栄利	（株）アイエー 代表取締役
中国地域	橋詰　正紀	ダスキン愛の店廿日市（株）　代表取締役
四国地域	西岡　正人	（有）ダスキン高知　代表取締役
九州地域	平野　明	（資）ダスキン天草　代表社員

めい あい へるぷ ゆう ー ダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年 国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月 内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生れ変わりました。

「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありませんか?）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれません。誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう
平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、
心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、
広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、
障害者のニーズを理解し、
ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、
すべての人間が深い絆で結ばれ、
社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。

あいのわ
ダスキン愛の輪基金

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金
〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 http://www.ainowa.jp

921-5,500-16.08.